

編集の序

学生や新人の理学療法士の人たちは、経験豊富な理学療法士が運動器疾患を有する患者の治療を行う際に、患者の訴える症状部位だけでなく、一見、主訴と無関係のように見える他の部位を評価・治療するのを見たことがあると思います。近年、腰痛患者の股関節、頸部痛患者の胸椎、上腕骨外側上顆炎での頸椎など、症状部位から離れた部位にアプローチすることで症状を改善させることができるというエビデンスも報告されており、これは「身体部位間の相互依存性 (Regional Interdependence)」という概念として知られています。

医師による医学的診断はもちろん重要ですが、この情報だけで治療を行うと症状のある部位だけに集中してしまい、患者の全体像を見過ごしてしまうことがあります。最良の結果を得るためには、クリニカルリーズニングによって症状部位と関連する他の身体部位を評価・治療するだけでなく、他の要素も含めて患者を十分に理解することが必要となります。

本書「クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる！」では、日々の臨床でクリニカルリーズニングを駆使して活躍している理学療法士の先生方が、どのような視点で運動器疾患患者の身体部位間の相互依存性を評価・治療しているか、また、心理社会的要素も含めた包括的な患者管理を行っているかを実際の臨床の流れに沿って解説しています。各先生方の臨床で培ったクリニカルリーズニング能力が示された本書を熟読していただくことで、読者の皆様のクリニカルリーズニング能力がさらに発展することでしょう。

最後に日々の臨床で行っているクリニカルリーズニングを図示、文章化するという非常に困難な作業を快諾していただいた執筆者の先生方に心より感謝申し上げます。

2017年4月

編者を代表して
中丸宏二